東京国税局管内納税貯蓄組合連合会　会長賞

「『公平』とは何だろう」

足立区立　伊興中学校

三年　高橋　さや花

私が税について調べる中で興味や疑問を感じたのは、「累進課税制度」のことだ。収入が高いほど税率が高くなるこの仕組みを知って、これは「公平」なのだろうか、と疑問に感じた。一方で、金額が違うことがそのまま「公平ではない」ということではないのではないか、とも感じた。そこで、そもそも公平とは何なのか、累進課税制度を通して考えることにした。

まず、累進課税制度について調べてみると、これには生活に必要な利益を守りながら、社会全体で支え合うという目的があることが分かった。収入の少ない人の税の負担が大きくなると生活が脅かされてしまう。そうならないために、負担できる能力や、経済力のある人がその分多く負担することで、社会保障や医療、教育、福祉などのサービスを通じて人々に還元される。こうして人々のくらしを支えながら、社会のバランスをとっていると知り、この制度は必要だと私は感じた。

次に、デメリットにも着目した。それは、収入が増えるほど税率が高くなるため、人によっては「割に合わない」と感じ、働く意欲、投資への意欲が下がる可能性があるということだ。努力して高収入を得たのに、その分税金が多くなるのは、割に合わない。そう思う人の気持ちは、私もよく理解できた。

それでは、仮にこの気持ちに従って累進課税制度をなくしたら

社会はどうなるのだろう。生活に余裕のない人にとっては負担が重い、還元が少ないと感じるかもしれない。その結果、教育、医療、子育て支援が充分受けられない可能性もある。余裕のある人は収入が増え、貧富の差が拡大するのではないか。税金は私たちの暮らす社会を支えている。この仕組みを守るには、互いに支え合う姿勢が必要になるだろう。

調べてから考え直すと、私が初め考えていた「公平」は、一人ひとりが納得できることであった。しかし、調べて考えが変わった。一人だけに目を向けると、それぞれの気持ちはあるが、それでも社会全体は多くの人が安心して暮らせるバランスを保つことができるのであれば、それも公平の一つの形だと考えた。「公平」とは、全員が同じように感じることではなく、社会全体で見るバランスが安全に保たれることと言えるのではないだろうか。累進課税税度を知って、このように考えることができた。

今回、さまざまな視点から考えることで、自分の立場だけでなく、全体を見て影響を考えることも大切だと学んだ。将来、さらに多くの税を納めることになる。その立場になったら、自分の負担が誰かの生活や社会を支えていることに目を向けて、前向きな気持ちで税を納められる大人になりたい。